今後の災害対応について

町長　より実践的な訓練を実施したいと考えている

杉田健司

問　花菖蒲まつり、納涼まつり開催の考えは。

答　花菖蒲園においては、木道の流出、土砂の流入が発生し多大な被害を受けた。「花菖蒲を育てる会」と現地調査を実施し、株の生育に異常が無いことを確認した。土砂の撤去も完了し、園路工事を進めている。

納涼まつりの備品の一部も浸水被害が生じたが、商工会で修理等の対応を行う。両まつりとも開催に向けて支援していきたい。

問　多くの避難者（758名）を受け入れたが、問題点は。

答　避難者名簿用紙の不足、避難者受付の混乱、帰宅者のチェック漏れなどがあった。避難所開設担当職員が1人体制では対応が困難な状況も見受けられた。職員の対応力向上、自主防災組織等との連携が重要だと認識した。

問　ドローン取得の考えは。

答　民間との協定に基づき導入方法や町職員が撮影する方法も検討し、導入に向けて研究する。

問　今年の防災訓練は。

答　萩ヶ丘小学校区域で実施する方針。山間地域を踏まえた実践的な訓練を行う。

新たに指定避難所に指定されたふれあいセンター田黒

東京オリンピック・パラリンピックは国旗を掲げて応援しては

教育長　国旗を掲げての応援を町が促すことはできない

長島金作

問　東京オリンピック・パラリンピックは世界のスポーツの祭典であり、国民は日本選手を応援しメダルを期待している。町の応援は。

答　オリンピック精神は、「スポーツを通して心身を向上させ文化・国籍など様々な違いを乗り越え、友情・連帯感・フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現に貢献すること」世界中の方が自国の選手を応援しメダルを期待している。

国旗はいずれの国でもその国の象徴として大切にされている。互いに尊重し合うことが必要であり、国旗に敬意を表すことは、国際社会の基本的なマナーである。

競技場等で国旗を持って応援する光景を目にするが表現の自由や応援スタイルの自由等もあり本町では促せない。

問　本町で働く外国人の母国の国旗を掲げて、おもてなしはどうか。

答　東京オリンピック・パラリンピック期間中は、本町で働く外国人労働者の方以外の外国の方の来町も考えられるので、おもてなしの表現方法について検討する。

中長期の課題について―決断と実行力―

神山　俊

町長　住民の目線に立った住民のための施策を積極的に取り組んでいく

問　平成30年3月定例会で庁舎機能を一つにと質問したが、答弁では検討委員会設置については平成32年度までに策定する公共施設等総合管理計画に基づく個別計画の中で設置については検討すると言われたが、進捗状況は。

答　両庁舎を当面の間現状利用すべきであり、検討委員会を立ち上げる段階にはないと考えている。

問　埼玉中部資源循環組合が解散を議決したが、ごみ処理に対して町の考え方は。

答　小川地区衛生組合の構成町村を軸に協議を進めていく。

問　水道料金の改定（値上げ）は実施予定なのか。

答　水道審議会へ再度諮問する中で協議していただき、その答申を踏まえて判断したい。

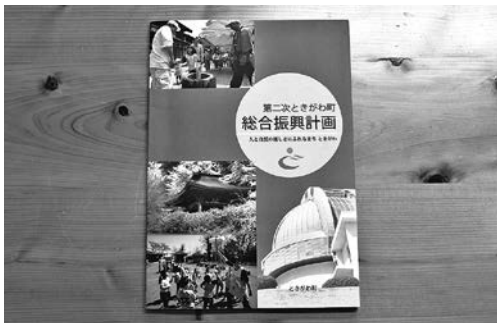
問　乗合タクシーは今後さらなる時間や曜日などの拡大は考えているのか。

答　利用状況などを見ながら常に改善を進めていく。

問　㈱ベジテックの操業については。

答　令和4年春頃に見込まれている。

他に、キャンプの町に―宿泊客の獲得へ―　を質問した。



終活の一助へ「エンディングノート」の作成を

小島　利枝

町長　町独自のノートを作成し、必要と思われる高齢者に対し配布している。

問　今後の終活支援事業の考えは。

答　来年度開講する高齢者の学習の場「人生百年大学」にて終活セミナーを組み込む予定。地域包括支援センターではエンディングノートを有効活用するための、司法書士やファイナンシャル・プランナーなどの専門分野を講師とした「終活セミナー」を開催予定。

台風19号から見えた災害対応について

問　町では自助についてどのような取り組みを考えるか。

答　自分の命は自分で守る自助が重要。現在、情報発信や日頃からの個人や家庭の備えの重要性をお知らせしている。今年度から防災アドバイザー制度をはじめ、自主防災組織を通じて自助・共助のアドバイスを始めた。また、来年度にハザードマップを新しく作り替える予定。

問　以前提案した「マイ・タイムライン」（災害時に自ら取るべき行動を時系列に整理した自分自身の防災行動計画）の推進は。

答　各個人に委ねている状況。次年度に作り替える予定のハザードマップに記載できるよう検討していく。